

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ワークシートやノートの点検、小テストや補習に継続して取り組んだ結果、基礎学力を高めることができた。学習の目標を明らかにすることと終末に振り返りを行うことにより、学習の達成度を実感させるとともに、次の学習への意欲を高めることにつながった。またICTの効率的な活用も良い結果を導いてくれた。
- ・教材から派生した課題について、話し合いと発表を継続して実践した結果、お互いの意見を伝え深め合う活動に対する関心・意欲がさらに高まった。多面的な見方への意識も高まった。
- ・教材について自分の意見を書き、互いに読み合うことで、適切な表現で課題に沿った内容を書く姿勢が定着し、記述問題についての正答率につながった。

(2) 課題

- ・話の内容を適切に聞き取る力をつけるために、発表の聞き取りメモを活用し、聞き取る際のポイントを押さえる学習を反復する。
- ・文章の内容を正確に捉え、伝えたい事柄を明確にして書くことができるよう、様々な文章に触れさせ、表現の工夫を学ばせる。
- ・漢字や文法は、今後も繰り返し復習させ、定着を図る。また、部首に関しても授業の中で折に触れて確認する。
- ・字数を指定された作文問題を苦手とする生徒が多いため、授業の中でも作文問題の解き方を学習させるとともに、作文を書く機会を増やす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値より、基礎・活用とも大きく上回っていた。		
第2学年	目標値よりも基礎・活用共に上回っていた。	目標値より、基礎・活用共に上回っていた。特に活用に関しては大きく上回っていた。	
第3学年	目標値より、基礎・活用共大きく上回っていた。	目標値より、基礎・活用共大きく上回っていた。	目標値より、基礎・活用共大きく上回っていた。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
おおむね目標値より上回っていたが、「漢字を書く」問題のみ正答率が低かった。	目標値より上回っていたが、選択問題と記述問題の正答率が低かった。	目標値より上回っていたが、記述問題の正答率が低かった。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より下回っている。漢字の読み書きに関しては目標値と同じくらいであったが、部首の問題の正答率が低かった。	目標値より大きく上回っているものの、文章記述の問題に関しては正答率が低かった。	目標値より、下回っている。 (文章記述の問題がこの観点のポイントになっていることが原因と推察される)

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全問題に関して、目標値より上回っていた。ただし、漢字や文法等については、全国正答率と同水準であり、さらなる定着が望ましい状況である。	目標値より上回っていた。特に、文章読解に係る問題について、正答率が高い傾向が見られる。	目標値より上回っていた。特に、文章記述によって考えを伝える力が求められる問題について、正答率が高い傾向が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の知識定着のため、定期的に漢字コンテストを行う。	文学的文章では登場人物の心情や展開を読み取る力を身に付けるために、情景描写等の表現にも目を向けさせる。また、200字作文に定期的に取り組ませる。	学習への興味・関心を持たせるよう、授業の導入を工夫し、見通しを持って授業に取り組ませる。また意見交換の場を活用し、自分の意見を持つことや、他者の意見を聞き自分の考えを広げること・多面的な視野を持つことの大切さを実感できるような機会を多く持たせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の知識定着のため、毎週漢字の課題を出し、漢字テストを実施する。新出漢字の部首を確認するようにする。	200字程度の作文を授業の中で書く練習を行う。	文章の記述を苦手とする生徒が多いため、粘り強く記述に取り組む態度を育む。また、授業に参加しやすく主体的な活動になるような授業展開を教員が心がける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語知識・技能の定着を図ため、定期考査以外にもテストを実施し、その予習と復習を通して学力の定着を図る。	文章表現に関して、推敲の習慣が身についていないものもいるため、自らの考えがよりよく伝わる文章の在り方を身につけさせ、推敲の習慣づくりを進めていく。	単元に入る際に学習の目標を持たせ、見通しをもって授業に臨ませる。各単元において、何を学ぶのか、どこで生かせるのかをイメージさせた状態で授業を展開することにより、自分自身の力を高めていることを実感させる。そのことが学びの動機付けの主たるものとなるような指導を展開していく。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地理的分野、歴史的分野ともに、復習のための小テストや、家庭学習を定着させるためのノート作り、復習確認用のミニワークを導入したことにより、基礎学力を高めることができた。またICTの効率的な活用により、授業中に感じた疑問や、より深い学びに関する主体的な取り組みを行う生徒も増えてきた。
- ・グループワークを多く取り入れ、話し合いや資料の選択、より相手を説得するためにどのような手法をとればよいのかといった学習を多く取り入れた結果、多面的・多角的な思考ができるようになった。また記述に関する問題にも苦手意識が減って自分の考えを説明できるようになった。
- ・社会的事象について興味・関心を高めるため、新聞を活用した授業やニュースに対して持論を展開する「ニュースカード」を週に1回導入した結果、現在起きている社会情勢やSDGsの重要性に対する意識が高まった。

(2) 課題

- ・全体的に知識・技能の点では、目標値に達しているが、地理的分野について、資料に基づいた分析する力に課題をみることができる。今後、資料を活用した演習や立地条件に基づいた産業の発展の原因を探る学習などを通じて読み取る力の定着をはかっていきたい。また学習した内容を定着させるための方法をさらに考え実践していきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎・活用ともに目標値より上回った。		
第2学年	基礎・活用の目標値を下回った。	目標値より基礎は上回っていたが、活用は若干下回った。歴史分野では目標値を上回った。	
第3学年	基礎は目標値を概ね上回った。地理分野は地域調査の手法の正答率が目標値を下回った。歴史分野ではどの問題も目標値を上回ったので定着している。	目標値より基礎は目標値に近い状態だったが、活用に関しては目標より上回り、記述においては大きく上回った。	目標値より、基礎は目標値に近い状態だったが、活用に関しては下回っていた。また歴史分野は目標値よりやや上回っていたが、地理分野は下回っていた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回った。	目標値よりを上回った。	目標値より上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より下回った。	目標値より下回った。	目標値より下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より若干下回った。	目標値より上回っていた。	目標値を若干下回った。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
興味・関心を高めるために、学習テーマに関する良い資料を探し、ICT を効果的に活用しながら授業を進める。歴史・地理の関連を意識しながら振り返る時間を授業内に取り入れる。	グラフや地図など、複数の資料から特徴をつかみ、それを文章に的確に書く作業を取り入れていく。SDGs に関連付けながら意見文を書いたり、プレゼンテーションを行うことで、ESD で必要な力を高めていく。	話し合い活動や調べ学習、発表などの授業形態を取り入れ、興味関心を高めていく。さまざまな社会の動きに目を向け、関心を高めるため、ニュースや新聞を授業に取り入れていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや家庭学習のノートづくりを継続的に実施し、基礎的な知識の定着をはかっていく。歴史と地理を関連づけながら、公民的資質の育成に心がける。歴史的分野では飛鳥、平安の時代について忘れてることが多いため、3年生になる前に復習する時間を設定する。	資料の分析や複数の資料から読み取ることができる共通点を見つけ出す協働作業を取り入れていく。社会で起こっている出来事について意見文を書いたり発表したりする。教室に配布される新聞などを利用し、社会の出来事に関し考える授業を实践する。	調べる、まとめる、発表する授業形態を实践する。話し合い活動やプレゼンテーションを通じて、当事者意識の育成に努め、自らの考えを発信できる力を身につけるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習ノートや小テストで知識を定着させる。地理や歴史と関連させながら、公民的分野の学習を進めていく。学習の際、現代社会で起こっている事象を参考にしながら、当事者意識を高め、公民的資質の育成に努める。	新聞やニュースを取り入れながら、さまざまな現代社会にある課題を多くの資料を活用して、多面的・多角的な視点から思考を深める学習を進める。	興味関心を高めるため、話し合い学習やプレゼンテーションを通じて、社会を支える公民としての当事者意識を高め、多種多様な人々の協力を視野に入れながらよりよい社会の構築に参画できる力を育成する。

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 知識・技能の観点では全学年で全国平均、区平均と比較して平均正答率が上回った。生徒によって個人差の大きい観点であり、習熟度の低い生徒は算数の内容に戻って復習していくなど個々の課題に応じて計算の処理能力を高める必要がある。思考力・判断力・表現力の観点では問題を色々な角度から考え数学的に表現する能力を引き続き高めていきたい。主体的に学習に取り組む態度の観点では引き続き、数学的活動の中で「学び合い」を実施することで、生徒の主体性を高めていきたい。

(2) 課題

- ・ 3年間を通して小テスト・単元テストを計画的に実施し、達成度を評価する。
- ・ 身近な事象や生徒が興味・関心を示す事象を取り上げ、引き続き主体的に学習に取り組む態度を高める授業を実施する。
- ・ 課題を数学的に考え、表現し、伝え合う授業を引き続き展開し、課題を数学的に解決することの重要性を認識させる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回ったが、「百分率」で目標値を下回った。		
第2学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回っているが、基礎で2問、活用で2問目標値を下回っている。	基礎・活用共におおむね目標値より上回っているが、基礎で5問、活用で1問目標値を下回っている。	
第3学年	基礎・活用共におおむね目標値より上回った。	基礎・活用共におおむね目標値より上回った。	目標値よりおおむね基礎・活用共に上回った。「小数分数の計算」は下回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より上回った。	目標値より上回った。	目標値より上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりおおむね上回った。	「必要なマグネットの個数を数学的に説明する」問題では、目標値を下回った。	目標値より下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「平行四辺形になるための条件」が目標値を下回った。	「問題文と式から x と y が何を表すのかを答える問題」が目標値を下回った。	目標値より上回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストや単元テストを実施しながら、何度も問題を解き、反復していく。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまずきをなくすようにしていきたい。	自分の考えを言語化し、互いのよさを認めながら説明し合うことで、自分たちで課題を解決するために必要な力の育成を目指す。	数学を少しでも「楽しい」と思えるような授業を目指していく。そのために、生徒が主体的に取り組むことができる環境を整えていきたい。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の授業での復習や単元テストから、何度も問題を解き、反復していく。また、個に応じた指導を目指し、生徒のつまずきをなくすようにしていきたい。	自分たちで答えを導く力を身につけるために、自分の考え方を分かりやすく、他者に伝えるための環境を整えていきたい。	数学を「楽しい」と思えるような授業を目指す。そのために、生徒が主体的に学習できるための環境を整えていきたい。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
演習の時間を多くとり力を定着させる。単なる公式の丸暗記にならないよう定理を丁寧に説明しながら授業を進める。	話し合い活動から自分達で導くなどの主体的・対話的で深い学びを目指した授業を実践している。今後も継続する。	学習したことの定着率を高めるため、レポートや単元テストを実施したことで生徒のモチベーションが上がった。今後も継続する。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 主体的な学びに結びつける実験・観察を大切にし、実物や視聴覚教材などを用いて、理科的な経験不足を補いつつ、関心・意欲・態度を高められるような授業を実施した。
- 授業の中で、知識の確認と定着を図れるように、小プリントによる重要事項の確認を取り入れた。生徒同士の協働作業を通して、授業の中で知識や技能を確実に定着させることが、思考力や判断力、表現力の向上につながったと考える。

(2) 課題

- 今後とも実験・観察を大切にし、理科的な経験不足を補いつつ、主体的に学習に取り組む態度を高められるような授業を実施していく。小中一貫教育における研修会でも協議し、小学校から中学校へのスムーズな連携を図っていく。
- 実験や観察の結果を考察する力を養っていくような授業を工夫する。正しい結果や知識に頼りすぎている生徒が多く、実験や観察の結果から自ら課題を見つけ、解決できるような力を養う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎・活用共に概ね目標値を上回った。基礎で3問、活用で1問、目標値を下回った。		
第2学年	生物、化学、物理において、基礎の定着は見られるが、活用の達成率が低い。地学は基礎・活用共に目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で3問、目標値を下回っている。	
第3学年	基礎で11問、活用で2問、目標値を下回った。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で7問、活用で2問、目標値を下回っている。	基礎・活用ともに目標値を上回っている問が多い。基礎で3問、活用で2問、目標値を下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「生物とかんきょう」1問、「水よう液の性質」で2問、「電気の利用」で1問、目標値を下回った。基礎的な知識の定着に課題がある。	全ての設問において、目標値を上回った。	全ての設問において、目標値を上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より、上回っている問が多い。「火山」「地層」で下回っている問がある。	化学分野では目標値を上回っているが、「火山」「地層」「動物の分類」では下回っている問がある。	ほぼすべての問いについて、目標値より、下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学、生物、地学分野で目標値を下回った問題が10問あった。	化学、生物、地学分野で各1問ずつ目標値を下回った。	化学、地学分野で各1問ずつ目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った内容について、ICT 機器を利用した基礎的な知識の定着を目的としたドリル学習を行う。	引き続き論理的な思考力を必要とする課題を解決するような発問を授業内で行い、思考・判断した内容を表現する機会を増やす。	小中一貫教育における研修会をベースに、スムーズに小学校の既習事項から中学校への理科につながる工夫を続ける。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率の低い問題を中心に、関連する単元では基礎・基本を繰り返し学習し、定着をはかる。	知識の定着が不十分である項目について、思考・判断・表現の達成率が低かった。基礎の定着とその後の活用を1つのまとまりとして扱い、思考・判断・表現の向上を図る。	興味のきっかけとなるように、実験・観察をできるだけ多く取り入れ、今後も主体的に学習に取り組む態度の向上を図る。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回った内容について繰り返し学習を行い、基礎・基本の定着をはかる。	目標値を下回った問題が「短答」「記述」形式であることから、授業内で論理的に思考し、的確に表現するような創造的思考を養う発問を行う。	興味のきっかけとなる話題や観察・実験を多く取り入れる。難易度の高い課題を設置し、仲間と協同して解決していく能力を高める。基礎基本の小テストを実施し、自信につなげる。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・音楽的理論や楽典的知識の理解度は高く、さらに学ぼうとする姿勢がある。
- ・積極的に挙手・発言しようとする生徒が多い。少人数での話し合いにも前向きに取り組む。
- ・ICT 機器を使用する授業内容が増えた。

(2) 課題

- ・自信を持って自分を表現することに抵抗をもつ生徒がいる。
- ・全ての活動に SDGs を関連づけることが難しい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
変声期に入った生徒に配慮した指導を心がける。一人でも多く自信を持って歌唱表現できる力をつけさせる。 リズム読みの練習を充実させ、読譜力をつける。	楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で意見を共有し、明るく素直な歌唱を目指す。	子どもの意欲を引き出す課題の設定。 目標をもち、歌唱することへの抵抗をなくす。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表現力を伸ばしていく。 豊かな響きを作るために自らもっている音色に気づかせ、伸ばしていく発声法に留意する。	楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で意見を共有し、深い学びにつなげる。 楽器の音色や役割、曲の構成など関連づけて指導する。	子どもの意欲を引き出す課題の設定。 目標をもち、歌唱することへの抵抗をなくし、音楽への関心を高めさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
楽曲の構成や各パートの役割等も考えながら、全体の響きを味わって表現出来る力を養わせる。 世界の多様な音楽の理解と日本の音楽についての理解を深め、優れた演奏を多く聴く機会をもつ。	楽曲に対するイメージを持たせ、ICT を適宜使用しながらクラス全体で意見を共有し、深い学びにつなげる。 楽曲に対するイメージを表現するために、具体的な方法を体現させる。アプローチの仕方についても工夫させる。	「何のために」という目的意識と、課題ごとの目標を明確にする。 最高学年として学校全体の歌声をリードする自覚をもたせ、主体的、計画的な取り組みをさせる。

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・生徒に幅広い美術活動を体験させることができた。
- ・題材に合わせた鑑賞の授業を行うことで、制作とのつながりを意識させることができた。

(2) 課題

- ・授業内で作品を完成させられない生徒がいるため、課題の分量や質を見直す必要がある。
- ・課題の資料をよりわかりやすくなるよう見直す必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に親しませ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	作品制作の条件を理解させ、豊かな表現力を身に付けさせる。課題の分量、質を見直す。	授業規律を守り、集中して制作に取り組めるようにする。作品提出の期限を守る大切さを理解させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を身に付けさせる。美術文化に更に興味を抱かせ、知識を身に付けさせる。スライドの内容を工夫する。	材料の特徴を生かし、豊かな表現ができるようにする。課題の分量、質を見直す。	授業内で作品を完成させられるよう指導する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作に必要な知識・技能を深め、より専門性の高い分野に取り組めるようにする。美術文化への理解を深め、大切にすることを育む。	社会の中の美術と関連する題材を用いることで、社会との関りを考えながら表現できるようにする。	授業内で作品を完成させられるよう指導する。

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業内での大きな怪我なく、安全第一に取り組むことができた。
- ・水泳においては、ルールを逸脱した生徒に対して、厳重な措置をとり、命を守ること、ルールの大切さを伝えることができた。
- ・帯で行っていた補強運動の成果で、単元に付随する体力をつけることができた。
- ・陸上競技、器械運動、ICT 機器を活用した動作分析を用い、客観的に振り返り思考する力の素地を作ることができた。

(2) 課題

- ・年々気温が上昇し、水泳がWBGTの結果、実施不可となった場合の対応について。
- ・保健分野において、可能な限り主体的に学べる手立ての実践を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを理解し、イメージを持って活動させる。基礎技能を身につけスモールステップを設けて段階を追って力をつけていく。	自他の安全、感染、熱中症に留意し、自己の課題を発見した上で、活動方法を考えられるように学習カードを有効に使わせる。	種目ごとに安全かつ感染、熱中症に注意しつつ取り組めるように配慮し、意欲的に取り組めるように場の工夫を行う。仲間と共に学習する機会を大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを強調し、ポイントを整理しイメージを持って活動させる。基礎技能を身につけ、考えたことを行動に移していく力をつけていく。	自他の安全、感染、熱中症に留意し、自己の課題を発見した上で、より効果的な活動方法を考え実践できるように学習カードを有効に使用し、目標を持たせる。	種目ごとに安全かつ感染、熱中症に注意しつつ意欲的に取り組んでいけるように、狙いや課題を明確にし、積極的に取り組めるようにする。仲間との関わりを大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の特性やルールを強調し、ポイントを整理しイメージを持って活動させる。技能を身につけ、考えたことを行動に移していく力をつけていく。その場に応じて応用できるようにする。	自他の安全、感染、熱中症に留意し、自己及び仲間の課題を発見した上で仲間に伝え、より効果的な活動方法を考え実践できるように学習カードを有効に使用し、目標を持たせる。	種目ごとに安全かつ感染、熱中症に注意しつつ意欲的に取り組んでいけるように、狙いや課題を明確にし、積極的に取り組めるようにする。仲間との関わりを大事にし、男女混合を含むペア・グループでの活動を取り入れ互いにアドバイスをし合う活動を行う。

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎・基本の定着を目指し、学んだことを生かした実習を行うことができた。
- ・ものづくりの意義や必要性を学び、多くの生徒が製作に取り組んだ。作品を完成させることで達成感や喜びを感じることができた。

(2) 課題

- ・応用したり工夫したりしながら製作することを苦手とする生徒が多い。
- ・実生活につながる基本的技能を経験する場が少ない。授業内で実践経験を増やす必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

実施なしのため省略

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識や技能を理解させる。	実用性について検討し、課題解決に向けて考える。	実生活で活用できるよう、学習内容が自身の生活にどのように活かされるか具体例を紹介する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
習得した知識や技能を活用しながら、製作を安全に取り組ませる。	製作に向けて工夫しながら構想を書かせ、実現するために計画を立てる。	実生活を豊かで安全に過ごすために、技術の役割や衣生活・住生活について考えさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ICT 機器を活用して、より実用的な理解を深めさせる。	情報を活用し、工夫して応用的に活用ができるようにする。	将来より豊かな生活を送るために、学習したことを応用して生かせる場面を考えさせる。

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・第1学年

基礎・活用、領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、観点で目標値を上回る結果となった。特に、単語の意味理解やアルファベットの読み書きにおける正答率は非常に高かった。1年生の現段階での基礎的な音声知識や単語を理解する能力はあると考える。

・第2学年

基礎・活用、領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、観点で目標値を上回る結果となった。特に、リスニング（対話文の応答）、リスニング（さまざまな英文の聞き取り）、単語の並びかえによる英作文における正答率は目標値よりも非常に高い正答率だった。英文を聞き取り、理解する能力はあると考える。

・第3学年

基礎・活用、領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、観点で目標値を上回る結果となった。特に、リスニング（対話文の応答）、語形・語法の知識・理解や3文以上の英作文における正答率は目標値よりも非常に高い正答率だった。文構造や文法について理解していると考ええる。

(2) 課題

・第1学年

場面や状況に応じて、自分が伝えたい内容を表現する力が不十分であると考ええる。自分が伝えたいことを話したり、書いたりする活動を通じて表現する力を高めていくことが大切だと考える。

・第2学年

語形・語法・語彙の知識・理解が不十分だと考える。表現力や文章を読む力の土台となるような語形・語法・語彙の知識を蓄積していくことが大切だと考える。

・第3学年

場面に応じて書く英作文や語彙の知識・理解が不十分だと考える。語彙の知識・理解を定着させ、状況に応じて文章を作成する力を育むことが大切だと考える。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。		
第2学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	
第3学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての問で目標値を上回った。	自分が伝えたい内容を伝える英作文の問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	自分が伝えたい内容を伝える英作文の問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一般動詞過去形の疑問文を問う問題や語彙の知識・理解を問う問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	英文を読み取る問題及び3文以上の英作文の一部の問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	3文以上の英作文の一部の問題は目標値を下回ったものの、他の設問は目標値を上回っていた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙の知識・理解を問う問題は目標値に届かなかったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	場面に応じて書く英作文の問題や英文を読み取る一部の問題は目標値に届かなかったものの、他の設問は目標値を上回っていた。	場面に応じて書く英作文の問題は目標値に届かなかったものの、他の設問は目標値を上回っていた。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き基礎基本の定着を図ると共に、一部苦手な生徒への個別の支援を行う。	対話や発表等の原稿作成を通して、自分の考えを書いたり、発表したりする力を身につけさせる。	引き続き主体的に取り組めるように、話す活動と書く活動をバランスよく取り入れ、生徒が主体的に活動する場面の多い授業を心掛ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
復習を重点的に行う一方、音声から文字に起こす活動を展開することで、語形・語法及び語彙の知識・理解を深めていく。	教科書や副教材を用いて英文を読み取る力を育む一方、書く機会を設定することで、英文を作成する力を育む。	主体的・対話的に活動に取り組める授業を今後も継続して行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き基礎・基本の定着を図ると共に、一部苦手な生徒への個別の支援を行う。	対話や発表、日記等を通して、自分の考えを話したり、書いたりすることで、表現する力・相手に伝える方法を身につけさせる。	引き続き主体的に取り組めるように、話す活動と書く活動をバランスよく取り入れ、生徒が主体的に活動する場面の多い授業を心掛ける。